

『ファイト&ライフ』2017年2月号 V0158

(2016年12月24日インターネット、全国書店販売、70～73頁掲載記事)

日本テコンドー協会加盟・大学体育会所属の女子大生6名が取材を受けました。

女子大生と武道の精神性 彼女たちは何故テコンドーに夢中になったのか



女性の社会的進出が時代のキーワードになっている。

日本テコンドー協会も、若い男子よりも若い女子の方がやる気があり、優れた者が多い。とくに女子大生のやる気が顕著である。

大学入学後、はじめて武道テコンドーに身を投じる学生が殆どであるが、男子大学生よりも女子大学生の方が、フルコンタクト・テコンドーに挑戦する意欲が高い。昇級審査課題において「克己の精神」や「自己実現」について小論文を書かせているが、女子大生の方が真摯に課題と向かい合い優れた文章で、自分の現状や将来を表現している。当然の結果と言えるが、就職活動も、全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会へ出場している女子大学生の方が良い。

他方、青年層の自殺の急増、とりわけ20代の女性の自殺が急増している（厚生労働省調査）。彼女らは「ゆとり教育（20～29歳）世代」であり、その影響とみなす論者もいるが、つまるところ「精神性の問題」と言えるのかも知れない。

若い女性の「時代的やる気」とその対極にある「自殺の急増」。
この両極端な状況の渦中におかれている若い女性達。
とりわけ女性の社会的進出を推進するであろう女子大生が、
何故、大学入学後、縁もゆかりもなかった武道テコンドーの体育会に入部し、
いかなる体験からどのような葛藤を経て現在に至ったのかを明らかにしてもらおう。
彼女らの精神的成長過程を通じて武道の教育的効果をはかるものである。

メンバー

司会 熊久保英幸（武道・格闘技ライター第一人者）

- ①前根奏子（横浜市立大学体育会在学、4年。22歳、二段審査継続中）
第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子組手 優勝
- ②澤田侑輝乃（神奈川大学体育会。主将、3年、20歳、初段）
第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子組手A級 優勝
- ③鈴木美祐（神奈川大学体育会。3年、21歳、初段）
第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子組手B級出場
福島県出身。高校生で東日本大震災被災。
- ④大波美奈（横浜市立大学体育会在学、3年。21歳、初段）
第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 蹴武型B級出場
福島県出身。高校生で東日本大震災被災。
- ⑤田中千奈実（岡山大学体育会。3年、21歳、初段）
第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子組手A級出場
団体戦型 準優勝。 岡山県出身。
- ⑥大谷沙也加（岡山大学体育会。3年、21歳、初段）
第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子組手B級出場
山口県出身。

実施日 2016年11月26日（土）

場 所 後楽園ホールおよび在日韓国YMCA国際会議室